

平成29年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300130	事業の開始年月日	平成23年12月1日	
		指定年月日	平成23年12月1日	
法人名	株式会社へいあん			
事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」			
所在地	( 250-0042 )			
	小田原市荻窪887			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成30年2月14日	評価結果 市町村受理日	平成30年6月5日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

へいあん荻窪は、当法人として5箇所目のグループホームということで、設備面では細かな点において、経験を生かした内容となっています。安全確認用カメラを設置するなどの工夫をしている点や中庭スペースを広く取り、菜園では季節の野菜を育てている。今の時期は玉ねぎを植え、春の収穫を楽しみにしております。また、外出支援で季節の花を観たり、車での外出の難しい方も内部のイベントを積極的に開催しお客様に喜んで頂いている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年2月27日	評価機関 評価決定日	平成30年5月30日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の概要】</b> <p>この事業所は、小田急・JR線小田原駅西口から徒歩約20分の住宅地に位置し、建物は木造2階建である。広い庭には遊歩道や菜園などがり、菜園に玉葱やトマト、ゴーヤなど季節の物を植え、利用者の食卓を賑わしている。玄関には、車椅子対応の洗面台が設置され、外出後に手洗いやうがいなどをして衛生管理を行っている。内部は全面バリアフリー構造で、共有部分の温度と湿度が適度に保たれていて、利用者が快適に過ごせるように配慮されている。2階にある地域交流室は、運営推進会議や家族との面談などに利用したり、定期的にカフェを開いている。</p>
<b>【理念に基づく多彩な外出支援やイベント】</b> <p>地域の社会資源を活用した外出やイベントを、職員が話し合って年間行事計画に盛り込んで実施している。近くの神社に初詣やどんど焼きに出かけたり、車を使用して桜やあじさいの花見、フラワーガーデン見物、レストランへの外食ツアー、100円ショップへの買い物ツアーなどを毎月のように行っている。毎年開催する「RUN伴+小田原」に利用者も参加している。外出の際は、事前に車椅子対応トイレの有無やテーブルの広さなどを調べ、安全に安心して出かけられるように配慮している。</p> <p>イベントでは、利用者は年数回開催するカフェを楽しみ、職員と一緒に演じる「劇団荻窪」に参加し、夏の納涼祭では浴衣を着て楽しんでいる。節分の豆まきでは職員が鬼に扮装したり、仮装カラオケ大会では利用者が扮装して歌ったりしている。その他、お好み焼き大会、西瓜割り大会、運動会、クリスマス会、誕生会など参加型のイベントを実施している。外部からは、歌謡舞踊やフラダンス、ハーモニカ演奏のボランティアが来訪し、利用者が笑顔で見物したり歌ったりして楽しんでいる。</p> <p>利用者が、様々な催し物に自ら参加し、時には職員と共に楽しみながら心身を活性化し、笑顔で明るく暮らせるように支援している。</p>

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」
ユニット名	みかん（1階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」
ユニット名	小梅（2階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時のスタッフ全員で作成した事業所理念を、毎朝の朝礼、申し送り時に唱和、理念の共有に努めている。	開所時以来の理念は、朝礼や申し送り時に唱和して共有している。管理者は、理念の中の、利用者の安心、安全につなげるサービスの提供を意識して、職員に伝えている。職員は、互いに連携しながら笑顔で利用者に接し、相手の笑顔を誘って日々の生活を共に楽しく過ごすように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動やお祭りなど各種イベントに参加している。ボランティアの方にも参加して頂いたりしている（ハーモニカ・フラダンスなど）	自治会が主催する、地域の清掃活動や防災訓練に職員が参加している。利用者がどんど焼きなどに参加している。地区の秋祭りでは、山車や神輿が事業所に立ち寄って、神輿練り上げなどをしてくれる。毎年、白山中学校の生徒が職業体験として来訪している。歌謡舞踊やフラダンス、ハーモニカ演奏のボランティアが来訪し、利用者が楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を、通して入居者の状況の報告介護度などを報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所以来、2ヶ月に1度、定期開催しており、ご入居者の状況や運営状況などを報告している。	運営推進会議は2か月ごとに開催し、メンバーは利用者・家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会会長、オーナーなどである。会議では、事業所の活動内容、入居者の状況、行事の報告のほか、会毎に議題を設定し、防災訓練の報告や感染症対策などについて話している。参加者との情報交換も行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小田原市役所高齢介護課や第6地域包括支援センターとやりとりを行っている。	小田原市役所福祉健康部高齢介護課とは、外部評価と目標達成計画などの書類提出などで連携している。小田原市のグループホーム連絡会に参加し、市の職員も会議に参加している。連絡会の「笑いヨガ」研修に参加している。毎年「RUN伴+小田原」というたすきリレーに利用者と職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる具体的な行為は正しく理解し、定期的研修等通じて教育を行っております。安全確保の観点から、玄関の施錠、2階フロア出入り口の施錠を現在行っています。	正面玄関は、内側から手動の掛け金をかけ、側面のガラス戸は、自動ドアで日中は開放している。車椅子の利用者は、乗ったままにならないよう適宜ベッドや椅子に移乗して休んでもらっている。フロア入口は、帰宅を望む方がいて、重度利用者の対応のため見守りが手薄になっていることから、家族の了承を得て一時的に施錠している。利用者の気分転換を図ってホームに馴染めるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は1月～3月にかけての身体拘束・虐待防止研修を全スタッフ受講予定です。ミーティングの際、虐待に繋がることはないか話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現在利用実績なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、契約書、重要事項説明書、預かり金管理及び日用品購入等代行についての約定書、等について十分な時間を取りご説明、ご理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに要望、意見を頂いている	家族の訪問時などに、時には利用者も交えて意見や意向を聞き取っている。家族会は、年1回実施する計画で、約半数の家族が参加し、要望の聴き取りや意見交換の機会となっている。年に数回、写真中心の「荻窪便り」を発行し、利用者の様子などを伝えている。家族より、利用者にマッサージをしてほしいとの要望があり、訪問マッサージを導入した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回フロアミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は、毎月のフロアミーティングで職員の意見や提案を聞いている。ミーティングは原則全員出席で、勤務外の職員の出席は、出勤扱いとなっている。職員の要望や提案は、介助の工夫や物品の購入、行事やレクリエーションの企画・実施に関することが多い。管理者は、できるだけ実現するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成27年4月にて、介護職員処遇改善に繋がる賃金体系見直しを実施、また職業能力等級にて給与水準を明確化している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員それぞれが力量に合せた目標を設定、個々のレベルアップを図る環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会への参加、活動等について、理解と支援をして頂いている。毎年RUN伴+小田原に参加、マラソンを通じて相互交流を深めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初の不安を出来る限り緩和できるように、スタッフ全員が笑顔で、お客様の声に耳を傾けることを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等との関係作りは、入居者の安心の生活にも欠かせない条件であると認識し、契約時から信頼関係作りに重点を置いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、出来るだけご本人、ご家族の意向を聞きだし、ケアプランに反映するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食器洗いなどその人が出来ることを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がホームに立ち寄りやすい雰囲気作りに注力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人の方々も気軽に面会に来易い環境づくりに努めている。毎回多くの方にご面会頂いている	家族と一緒に墓参りに行っている方がいる。知人や親戚などに出す年賀状や手紙は、本文は利用者聞きながら職員が書き、名前は利用者自ら書いてもらって投函するなどの支援をしている。馴染みの友人の来訪が比較的多く、居室で過ごすことが多いので、湯茶でもてなして、団欒してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性については、日頃から注意深く観察し、適切なフォローで関係作りを支援している。席の配置など		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて本人、家族が気軽に相談声掛けして頂ける関係作りを心掛けている。逆に退去後のご様子もご連絡して頂いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回のモニタリングや担当制により、一人ひとりの利用者の希望、意向を把握できるような体制をとっている。	職員は、日々のサービスの際に利用者と言葉を交わして、思いや要望を聞き取っている。意志の疎通が困難な場合は、仕草や表情などのわずかな変化を見て思いや意向を把握している。把握した情報は、個人記録に記載し、フロアミーティングで話し合っ共有している。外出の際、行きたい所をパンフレットなどで選んでもらい出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会ある毎に、管理者、計画作成担当者、又はフロアリーダーからご家族等にこれまでの経過等を聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握は、スタッフ全員が心がけ、個別サービス記録・申し送りノート、ミーティング等に残し情報を共有している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングは、各担当者がまとめ、フロアミーティングにおいて検討、介護計画を作成している。	介護計画に沿った実施記録は、「個別サービス記録」に記録している。利用者の日々の状況や医療情報は申し送りノートに記録して共有している。記録を基に毎月のミーティング時にカンファレンスを行い、職員が話し合っ利用者毎にモニタリングを実施し、目標達成度を数値化して評価している。計画の見直しは、通常は6か月、状況の変化があるときは随時実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実践状況は、スタッフ全員で個別記録への記入を心掛けている。申し送りノート、横ノート（スタッフ間情報共有用）を利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型の通所を開所、受け入れをしている（過去1名利用）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、訪問マッサージ・訪問歯科等活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診頂けるかかりつけ医として、現在内科と精神科のDr 2名に関わって頂いている。	協力医の往診は、内科医が月2回、精神科医が月1回である。内科医には看護師が同行している。法人の訪問看護師が週1回来訪して、健康チェックや爪切りなどをしている。歯科医は必要に応じて随時来ている。家族の要望で利用している訪問マッサージが毎週訪問している。家族が付き添って歯科に通っている方が1名いる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーション（平塚）から、週1回訪問を受け、入居者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとは、緊密に連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当社の方針はお伝えし、ご理解頂いている。必要に応じて「重度化した場合における対応に関する同意書」の締結等行っている。	利用者や家族には「看取りに関する指針」を契約時に説明している。重度化が進んだ場合、必要に応じて医師、家族、事業所で話し合い「看取り介護の同意書」を受け取っている。事業所では、看取りについての研修を実施している。昨年より今年にかけて、家族が宿泊して付き添うなどの協力を得て看取り介護を行った。年明けに、自然なかたちで最期を迎えられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員がCPR研修を受講済み、日常の朝礼時にもCPR手順を復唱し、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は6月と10月避難・災害訓練を実施、3月に消火訓練を実施する予定です。	昨年2月に、消火・通報訓練、6月に、火災発生対応訓練、10月に、夜間の大震災発生想定自主訓練を実施した。オーナーや自治会長の協力があった。利用者も参加した訓練の様子が、画像記録で保存されている。災害備蓄は、飲料水、食料、カセットコンロ、簡易トイレ、介護用品や薬品など約3日分が、備蓄リストによって管理されている。	避難訓練の実施や災害備蓄の保管は確実に行われています。今後は予想される大震災に備え、事業所内の家具類や冷蔵庫の転倒防止、テレビ、電子レンジなどの電気器具類の飛び出し防止策の徹底を期待します

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフミーティングなどで周知し、また言い合えるような職場環境に努めている	接遇・プライバシー保護の研修を実施している。職員は、利用者のプライバシーに関する話をする時は氏名ではなくイニシャルを使っている。居室に入るときはノックをし、入浴時に脱衣場に入るときは声をかけている。子供扱いせず、さん付けで呼びかけている。リビングで使う書類は使用後は、必ず閉じて置き、個人情報を含む書類は、書棚に施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が気兼ねなく思いを伝えられる雰囲気を作ること、その為にはお客様と信頼関係を築くことを重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、お客様のペースに合わせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服をご自身で選んで頂いたり、イベント時には化粧をするなど楽しみを持って頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、食器洗い、洗濯たたみなど、出来ることは一緒にお手伝いして頂いている。	食事は、専門業者に献立付きの食材の配達を依頼し職員が調理している。利用者は、キャベツを刻んだり、りんごの皮むきをしたり、後片付け、食器洗いなどを手伝っている。職員は介助しながら同じ物を食べていた。個々の状況により、刻み食やとろみ食などを提供することもある。誕生日にはケーキ、クリスマスにはノンアルコールビールを提供したり、すしの出前を取ったり戸外でサンマを焼いて食べたりして楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎日チェックし摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、実践して頂けるよう声掛けをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を活用し、排泄パターン把握に努めている。	トイレの清掃は職員が行っており、臭いや汚れはない。排泄チェック表を活用し、頃合いを見て声かけや誘導を行って自力排泄を維持することに努めている。失敗したときはシャワー浴などで対応している。排泄しやすい姿勢をとれるように、職員3人で介助することもある。夜間は睡眠を優先し、必要に応じて見守りや誘導、介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳、オリゴ糖など、飲食物の工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に合わせて入浴をしていたり、必要であれば時間を問わず実施し、希望があれば出来るだけ添うようにしている。	入浴は通常は週2～3回であるが、希望があれば柔軟に対応している。浴槽の湯はかけ流し状態にして、使用後は、毎回清掃し消毒している。流し場は特殊材質の床で多少温かみがあり乾きやすい。人目につかない場所に、入浴チェック表や入浴後の薬の管理表を貼り、間違いのないようにしている。菖蒲湯や柚子湯で季節を感じてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて午睡のすすめや、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、服薬チェック表を活用している。個別のファイルに処方された薬の内容が常に新しいものが上にくるように綴じられ確認出きるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯たたみやテーブル拭きの声掛けにて役割作り行って頂いている。カフェを定期的に開催し気分転換を図っていただいている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭やスーパーへの散歩、外出支援を行っている、ご本人の意向にてお墓りなどご家族の協力を得ながら実施している	広い敷地内は、日常的な散歩や外気浴などに活用されている。車椅子の方にも対応している。交通の激しい正面の道路を渡らないようにした散歩コースがある。年間行事計画を作成して、近隣の神社の初詣やどんど焼き、花見、買い物ツアー、フラワーガーデン、ファミリーレストランなどにも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、現在施設にて管理しています。買物や外出にて、好きなものを購入して頂く等の支援を行っている。本人所持は基本ないが、小銭をお持ちの方はいらっしゃる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されるお客様には、本人自ら電話して頂く等、支援している。年賀状も送っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して暮らしていただける居住空間を心がけ、季節感を取り入れた装飾等工夫している。	リビングルームや廊下には、利用者と共に作った季節の行事の壁飾りを掲示し、行事や外出の写真を貼って家族に様子を伝えたり、利用者の回想に役立てている。階段室に、職員が布で作った雛人形を飾っていた。ダイニングルームに對面してキッチンがあり、フロア全体を見渡せる。廊下に談話用のテーブルとイスが設置されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングのほか、談話コーナーが設けてあり、独りになりたいお客様の良い居場所となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、出来るだけ使い慣れた馴染みのものを持ち込んで頂いている。（照明も含めて）	1階の居室に出窓があり、2階の居室にはベランダがある。居室は、空調設備とキャビネットが常備され、利用者はベッド・照明器具・防災カーテンに加え、テレビ、テーブル、椅子、ぬいぐるみ、家族の写真、仏壇など馴染みのものを持ち込んでいる。居室担当者が衣替えやカーテンの洗濯などを行っている。早番が居室の清掃している。利用者毎に、職員手作りの布製の表札がかけてあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室や居室内の手すりの位置に配慮、洗面台も車椅子対応の鏡を備える等、工夫している。階段の段差の高さも配慮、敷地内を含め6箇所監視カメラも設置している。		



# 目標達成計画

事業所名 グループホーム 入心あん楽苑

作成日 H30. 6. 5

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 13	今後予想される 大震災に備え、 事業所内の転落の危険 (家具、カー)	事業所内の家具、 家電の転倒、転落 防止。	車椅子の危険のあり、 右取押、椅子の向き、 TV等転落防止 (足元マットの 設置)に気を付けて転倒防止を図る。	3ヶ月～ 6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

